

各 位

上場会社名 **株式会社 やまねメディカル**  
 (コード番号 2144 : JASDAQ)  
 本店所在地 東京都中央区八重洲二丁目2番1号  
 代 表 者 代表取締役社長 山 根 洋 一  
 問 合 せ 先 経 理 財 務 部 長 小 澤 眞  
 電 話 番 号 (03)5201-3995  
 (URL <http://www.ymmd.co.jp/>)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成27年8月31日に公表いたしました平成28年3月期の第2四半期(累計)及び通期の連結業績予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

平成28年3月期第2四半期(累計) 連結業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(単位:百万円、%)

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,800	△165	△150	△140	円 銭 △12.79
今回修正予想(B)	3,925	△383	△403	△435	△39.75
増減額(B-A)	125	△218	△253	△295	△26.96
増減率(%)	3.3	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	3,077	△571	△586	△416	△38.04

平成28年3月期第2四半期(累計) 個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(単位:百万円、%)

	営業収入	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,750	△150	△140	円 銭 △12.79
今回修正予想(B)	3,891	△351	△396	△36.19
増減額(B-A)	191	△201	△256	△23.40
増減率(%)	3.8	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	3,064	△531	△359	△32.79

平成28年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

（単位：百万円、％）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	8,400	385	350	185	円 銭 16.89
今回修正予想（B）	8,000	35	0	0	00.00
増減額（B－A）	△400	△350	△350	△185	△16.89
増減率（％）	△4.8	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成27年3月期）	6,477	△1,259	△1,290	△1,014	△92.67

平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

（単位：百万円、％）

	営業収入	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	8,200	350	185	円 銭 16.89
今回修正予想（B）	7,800	0	0	00.00
増減額（B－A）	△400	△350	△185	△16.89
増減率（％）	△4.9	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成27年3月期）	6,440	△1,167	△1,040	△95.03

修正の理由

1. 第2四半期累計期間

- (1) 営業収入については、当連結累計期間中に11箇所の既存通所介護施設事業所の統合を行なった過程において、遠方ご利用者のご利用中止等のマイナス要因が発生いたしました。新規開設した高齢者住宅の入居が比較的順調に進捗したこともあり、予想対比では若干の増収となりました。
- (2) 営業利益、経常利益及び当期純利益面において予想を上回る損失を計上したのは、以下の要因が重なったことによるものであります。
  - ① 第1四半期中は、前期におけるサービス付き高齢者向け住宅の集中的開設による初期赤字の累増による損失計上が持続したことに加え、営業収入の急増による業績回復を図るための諸施策に対応して要員増加を先行させた結果、人件費が大幅に膨張いたしました。
  - ② これに対処して、早期黒字化を達成すべく、徹底的なコスト削減対策に取り組みましたが、その成果の発現に予想以上の期間を要し、第2四半期中の8月に至ってようやく単月黒字を達成いたしました。しかしながら、新たな先行投資要因もあり、黒字幅は僅少にとどまりました。
  - ③ この結果、当第2四半期連結累計期間としては、大幅な損失が残存いたしました。

## 2. 通期

- (1) 営業収入については、着実な増加は持続するものの、第2四半期累計期間及び直近の増勢は、当初予想において想定した第3四半期以降の増加ペースには及びませんので、現状のトレンドを踏まえて通期予想を修正するものであります。
- (2) 利益面においては、第3四半期連結累計期間以降は、上記のコスト削減を主軸とする業績改善努力と営業収入の着実な増加により、黒字が定着する目途が明確になっております。しかしながら、今後想定される年度末までの利益幅は、第2四半期連結累計期間までの損失額にほぼ相当する程度と見込まれますため、通期では、経常利益ベースで±0と予想しております。

以 上